

【第1章】 計画の基本的な考え方

「生きがいや喜びを感じる暮らし」の実現に向けて

清音村では、子どもから高齢者まですべての人にとって「これからも住み続けたいと思える清音村」をめざし、「人づくり・地域づくり」を基盤にして、計画づくりに取り組んできました。

「これからも住み続けたいと思える清音村」を実現すること、それは住民のみなさんが描く「生きがいや喜びを感じる暮らし」を実現することだと考えます。その「生きがいや喜びを感じる暮らし」というめざす姿を具体的に描き、その実現に向けて何が必要で、何ができるかを住民と行政がともに考え、話し合いました。そして、お互いが役割を果たしながら、できることから少しずつ取り組んでいくことで子どもから高齢者まですべての人にとって「生きがいや喜びを感じる暮らし」を実現していくことができると考えました。

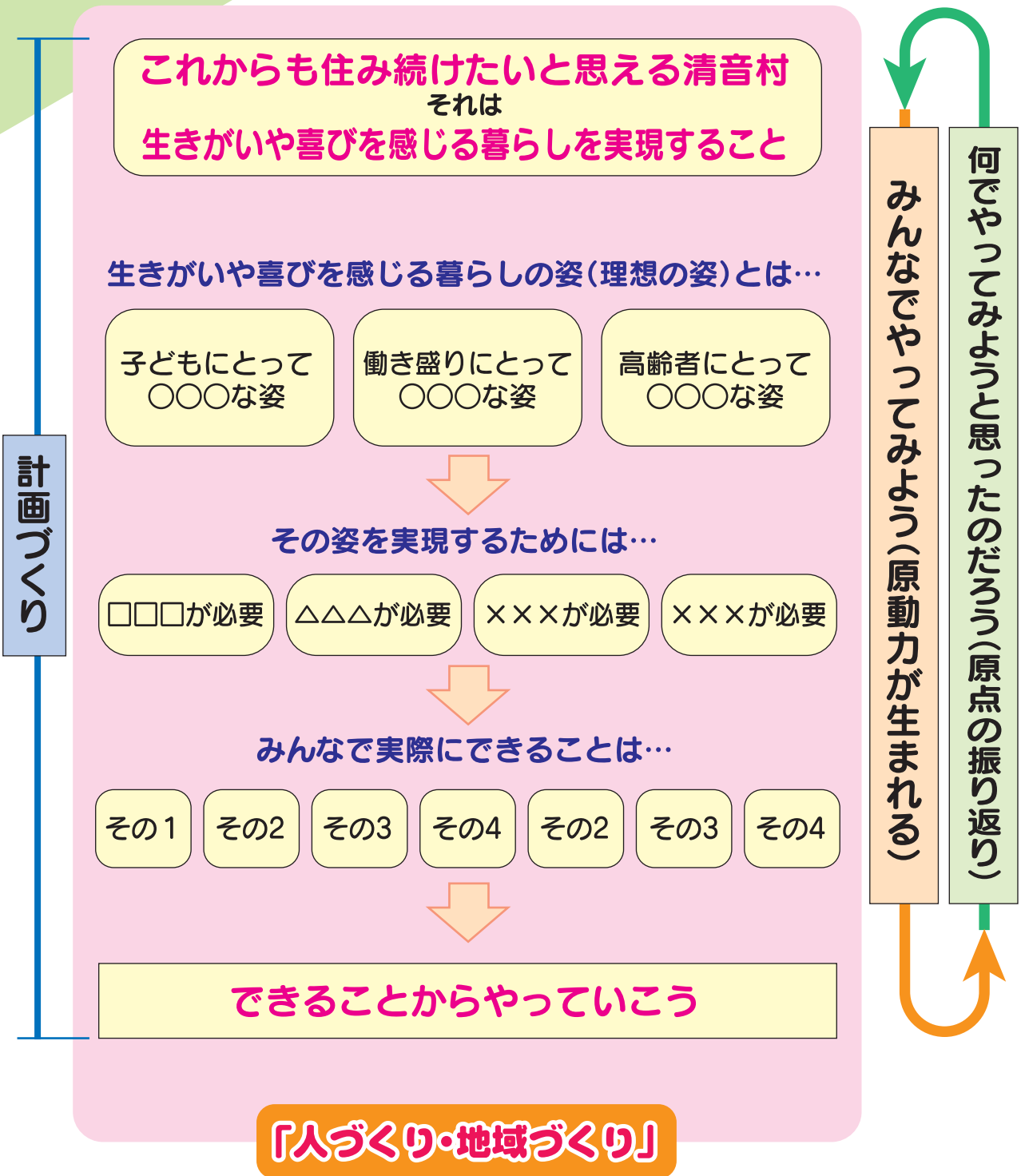
理想を描き取り組んでいくまでの過程の中では、住民と住民、住民と行政が、「お互いを認める気持ち」や「お互いを思いやる気持ち」が生まれ、信頼関係を築いていくことが非常に大切です。また、それぞれ持っている力を引き出しあい発揮しあうことが、「自分達でやってみよう」という思いにつながり、生きがいや喜びとなっていきます。そして、この活動をあらゆる機会で行うことにより、地域全体が活気あるものになっていくと考えました。

このことは「人づくり・地域づくり」そのものであり、住民と行政がともに活動していくための基盤になるものだと考えます。

そこで、この計画書には「生きがいや喜びを感じる暮らし」をめざしていくための基盤となる「人づくり・地域づくり」をすすめていくための考え方を示しています。そして、みんなで理想を描き、その姿を実現させていくために、この計画書に書かれている考え方をあらゆる機会において活用したいと思いまとめました。

計画の全体像

今回、計画の全体像を以下のように描いています。



そのためには、信頼関係が大切！

「計画づくり」の考え方

「生きがいや喜びを感じる暮らし」の理想の姿を実現していくためには、「生きがいや喜びを感じる暮らし」の理想の姿を具体的に描き、その実現に向けて何が必要で、何ができるかをみんなで考え、話し合い、お互いが役割を果たし、できることから少しずつ活動していくことが大切です。

この「生きがいや喜びを感じる暮らし」の理想の姿を実現していくことこそが「計画」であり、「計画」を実現していくための「過程」が「計画づくり」だと考えました。

「計画づくり」をすすめていくには、お互いの思いを大切にし、確認しながらじっくりと話し合うことが大切です。そして理想の姿の実現にむけて気持ちをひとつにしていくことで、「お互いを認める気持ち」や「お互いを思いやる気持ち」がうまれてくると考えます。このような気持ちを繰り返し確認しながら共有し、お互いができることを気持ちよく取り組むことで、活動への原動力が生まれ、みんなが生きがいや喜びを感じ合えます。これは住民と住民、住民と行政の関係でも基本となり、大切にしていかなければならないと考えます。

「計画づくり」があらゆる機会に繰り返されることで「人づくり・地域づくり」がすすんでいくと考えます。「人づくり・地域づくり」は一朝一夕にできることではなく時間がかかりますが、一歩ずつ支えあいながらすすんでいくことで、活動への原動力が大きくなり理想の姿が実現でき、この計画が生きたものになります。

そのため、「人づくり・地域づくり」は健康づくり活動に関わるだけでなく、理想の姿を実現するために、住民や行政が取り組むすべての活動の基盤になるものです。

計画の位置づけ

みんなが描く「生きがいや喜びを感じる暮らし」の理想の姿とは、一人ひとり異なるものだと考えます。しかし、子どもから高齢者それぞれの理想の姿は、自分ひとりで実現できるものではなく、家族や地域との関わりがあって始めて実現できるものです。このことは、第2章・第3章の活動で実感しました。

現在、「健やか親子21」「次世代育成支援地域行動計画」「健康増進計画（健康日本21）」「地域福祉計画」という4つの計画を策定することが求められています。「健やか親子21」と「次世代育成支援地域行動計画」では、子どもに注目して地域で安心して子育てができる環境づくりをめざしています。「健康増進計画（健康日本21）」では、健康づくりに注目して、一人ひとりが稔り豊かで満足できる人生を送れることをめざしています。「地域福祉計画」では、住み慣れた地域で、その人らしく安心した生活を送れることをめざしています。

この4つの計画は、それぞれ対象とする人は異なり、計画ごとに特徴がありますが、計画のめざすものを実現するためには、個人だけではなく家族や地域といった人との関わりが必要になってくると考えました。そして、みんなが描く「生きがいや喜びを感じる暮らしの理想の姿」を実現することによって、達成できるものだと考えました。

そのため、4つの計画を別々に立てるよりも、あわせて立てることによって、それぞれの計画のめざすものをより達成できると思います。

よって、この「これからも住み続けたいと思える清音村をめざして」では、4つの計画を含んだものとして位置づけます。

4つの計画がめざすもの

健やか親子21

安心して子どもを産み、ゆとりを持って健やかに育てるための家庭や地域の環境づくりと、少子・高齢社会において国民が健康で元気に生活できる社会の実現を図る。

次世代育成支援地域行動計画

次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される社会の形成に資することを目的とする。

健康増進計画（健康日本21）

21世紀の我が国を、すべての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とするために、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質の向上を実現することを目的とする。

地域福祉計画

すべての住民が、住み慣れた地域の中で、人としての尊厳を持ち、家庭や地域の中で障害の有無や年齢にかかわらず、その人らしい安心した生活を送れるよう自立支援することにある。

目標値の考え方

みんなが描く「生きがいや喜びを感じる暮らし」は一人ひとり異なるので、それぞれの状況に合わせた取り組みが必要です。しかし、事業の目標値を設定することは、目標値を達成するためにみんなが同じ取り組みを実施することになりがちで、一人ひとりの状況に合わせた取り組みはできにくくなります。そうすると、この「計画づくり」で大切にしている、「生きがいや喜びを感じる暮らし」を実現していくことは難しいと考えます。

そのため、今回の計画では「計画づくり」をすすめていく上で、事業の目標値を立てることはしていません。第6章では、次世代育成支援地域行動計画目標値について書いていますが、これは現在実施しているものを見直していくという意味で目標値を立てています。

しかし、子ども、働き盛り、高齢者のことをひとつひとつ別々に考えるのではなく、「人づくり・地域づくり」を基盤として、住民一人ひとりや色々な組織や団体と手を組み、ともに考え、話し合い、みなさんと力をあわせて活動することで、「生きがいや喜びを感じる暮らし」を一歩ずつ実現していけると考えています。

計画の実施期間

この計画は、平成16年4月から平成26年3月までの10年間の計画とし、必要な都度みなさんと話し合っ、外部評価等を取り入れ見直しや延長を行っていきます。